

## 平成24年度 3月 経営の重点

【通うだけで楽しくてしかたがない、通うだけで助け合う力が育つ「伝説の学校」をつくろう！】

- 学校教育目標・・・「自主貢献」－自主的に行動し、助け合える生徒の育成－
- 目指す生徒像・・・的確に判断できる生徒、自主的に行動できる生徒、助け合いができる生徒
- 目指す教師像・・・一番好きになる教師、気持ちがわかる教師、学び続ける教師
- 3つの重点目標・・・プライド（12の実践）、学力向上（校内研究）、郷土愛（家庭・地域との連携）

2月の経営の重点は「変化」と「感動」でした。

- 場の設定…小さな変化をつくるための場を設定することができたでしょうか？
- チーム承認…「自分で変わろうとする人をみんなで認めよう！みんなで誉めよう！」できたでしょうか？

### （3月の経営の重点） 「プライド」と「システム」

教育の成果を生徒の姿に写しだし実感として手に入れるのはなかなか大変なことです。でも我々はいろいろな試みを行ってきました。今月はいよいよそれらの試行による結果を振り返り、次年度につなげる大切な月です。事実を認め、何ができていて、何ができていないのか、何が売り物で、何が売れないのかを改めて認知し、再度仕切り直して学校教育目標の具現化に向けた一步を踏み出すための準備をしていかなければなりません。挨拶が、授業が、行事が、歌声が、部活動が、本当に我が校の売り物になるとするならば、継続して取り組むためのシステムを再構築し、生徒のプライドとして保護者や地域に認識してもらえるように努めなければなりません。

結果に対する原因がはっきりしない場合もあります。簡単に改善できないもの、本質をしっかりと見つめ直さなければならぬものもあります。次年度に向けた学校グランドデザインや教育課程、校務分掌、研修組織、生徒会組織、全体計画、年間計画等を検討する中で必要なシステムを再構築しなければならぬのです。表面的で簡単な手当をして終わりにするような問題解決に走ってしまうと別なところに新たに問題が発生します。間違っても同じ轍を踏むことのないようにシステムそのものを見つめ直し、私たち教職員の意識そのものを変えていかなければならぬのです。

例えば、知識、技能といったA型の学力いわゆるテストの点数のように目に見える学力が下がっているからといって、学力向上を掲げながら基本問題の反復練習ばかりでは、本当の意味で学力は向上しません。むしろ意欲、関心といった目に見えにくい学力を向上させることに一生懸命取り組み授業改善を図った方が、確実に向上し、指導システムが確立されるのです。そのために、「教えて」「いいよ」の関係を構築したり、課題を明確に提示したり、学習形態を工夫し学び合わせたりする研究システムが必要なのです。しかもその基盤に学級経営や教科経営と言われるマネジメントが大きく関わってくるのであれば、マネジメント研修も抱き合わせて行わなければならぬのです。A型学力が低いから単純にドリルや家庭学習を多くしようという取り組みではなく、問題の本質を見極め真摯にその改善やシステムの再構築に取り組むべきなのです。そのことが学校の売り物「プライド」を築いていくことなのだと思います。

- 今年度の集大成**…卒業式、3年生特別日課、送る会、修了式に今年度の成果が見られるようにしたい。  
生徒指導上の問題を抱える生徒(長欠・問題行動)に対する指導についてもまとめをしたい。
- 次年度計画の完了**…学校グランドデザイン、学校基本構想、教育課程等、次年度に関わる諸計画を完成させ、問題を抱える生徒に対する個別支援計画についても作成し、引き継ぎを確実にしたい。
- システムの再構築**…「12のプライド」のためのシステムを構築したい。
  - ①共生の学び合い ②感謝の地域交流 ③充実の自治活動 ④愛のふれあい弁当
  - ⑤継続の家庭学習 ⑥真摯なキャリア ⑦笑顔の挨拶 ⑧感動の歌声
  - ⑨感激の清掃 ⑩黙想と写本 ⑪自立の部活 ⑫向上の冬季練